

波乱の幕開け

出エジプト記13:21～22

主the LORDは彼らに先立って進み、昼は雲の柱をもって導き、夜は火の柱をもって彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた。昼は雲の柱が、夜は火の柱が、民の先頭を離れることはなかった。

出エジプト記12:37

イスラエルの人々はラメセスからスコトに向けて出発した。一行は、妻子を別にして、壮年男子だけでおよそ六十万人であった。

EXODUS



岩田副総裁

木内委員は、「物価の基調を決めるのは、金融政策でもマネーでもなく、潜在成長率である」、しかも「潜在成長率は金融政策では動かせない」とおっしゃっている。物価は潜在成長率で決まり、その潜在成長率を金融政策では動かせないとする、と、「木内委員は、一体、ここに何をしにいらっしやったのか」ということになる。

日銀政策委員会・金融政策決定会合議事録2015.04.30

自分の魂の救いにかかわる問題である以上、人は自分で聖書を探究しなければならない。

His soul's salvation is at stake, and he should search the Scriptures for himself.

各時代の希望 第37章 ただ1つの防壁 希望への光 P.1890

話し合いための質問

- ① あなたの人生の中で、神の召しを聞き入れたのに、物事がうまくいかなかったとき、あるいは、出だしがうまくいかなかったときのことを思い浮かべてください。時間をかけて、あなたはその経験からどんな教訓を学びましたか。
- ② あなたが神の助けを求めて祈ったとき、あるいは、神の助けを期待していなかったときに、神があなたの人生にいかに介入してくださったかを、ほかの人に話してください。主を信頼している人にさえ悪いことが起こるとき、私たちはいかにして神の憐れみを信じることができますか。
- ③ 「私は主など知らない」と明言する人に、あなたは何と言いますか。しかし、その人が反抗的な意味ではなく、自分の人生に関する単純な事実としてそう言ったとしたら、どうでしょう。その人が「主を知る」ことを助け、そうすることがなぜ重要なのかを説明するために、あなたは何かができるでしょうか。

モーセは神の命令を受けてファラオのもとに行き、イスラエルの民の解放を求めます。

しかしファラオは「主とは誰か。わたしは主を知らない」と神を否定し、要求を拒絶します。これは神への反抗と無神論的態度の象徴であり、歴史上繰り返される反神的な精神を表しています。

最初の試みによってイスラエルの労働はかえって重くなり、民はモーセとアロンに不満をぶつけます。

モーセ自身も神に失望を訴えますが、神は力強く応答され、「わたしは主である」と語り、ご自身の約束と契約を思い起こさせます。

神は、イスラエルの民を(1)エジプトの重労働から導き出し、(2)救い出し、(3)贖い、(4)ご自身の民として迎えると宣言します。これは神の愛と主権の現れであり、契約関係の再確認でもあります。

しかし、イスラエルの民は苦しみの中で氣力を失い、モーセの言葉に耳を傾けようとしません。モーセも再び自信を失い、「割礼のない唇」(出エジプト記 6:12, 30＝話す能力の欠如や伝達力の弱さを謙遜して表現)と自らの力不足を訴えます。それでも神はアロンを助け手として与え、モーセに再びファラオとの対話を命じます。

神は、ファラオの心がかたくなになることを予告しながらも、最終的にはエジプトが主を知るようになる(出エジプト7:5、14:4、18、イザヤ書 19:21)と語ります。

預言者の役割もここで明らかにされ、神の言葉を民に正しく伝える者としての責任が強調されます(出エジプト記 7:1～2)。

聖書の「出エジプト」は、現代を生きる私たちにとって深い霊的教訓と神の御心を伝えている。

☞神は解放の神である エジプトで奴隷状態にあったイスラエルの民を、神はモーセを通して解放された。これは、抱える罪や恐れ、束縛、社会的不正からの霊的解放・实际的解放という希望を与える。

☞信仰による従順と試練の道 イスラエルの民は荒れ野で何度も不平を言い、信仰が試されました。信仰生活には困難があること、それでも神を信頼し従うことが求められる。

☞神の導きは日々与えられる 荒れ野では昼は雲の柱、夜は火の柱で導かれ、マナも与えられました。日々の生活の中で神の導きと養いを信じて歩むことが求められる。

☞神との契約と律法の重要性 シナイ山で授けられた十戒は、神と民との契約の証しである。神の戒めと倫理に従う心の整えが求められる。

☞真の自由は神への従順 エジプトからの脱出は、自己中心に生きるための脱出ではなく、神に仕える自由でした。神の愛と真理の中にある生き方が求められる。

☞神の時と忍耐 イスラエルの民は、神の「時」によって導かれました。 私たちも、すぐに結果を求めるのではなく、神の時に信頼して歩むことが求められる。

神を信頼する人は、多くの試練に直面するでしょう。

しかし、私たちが耐え忍ぶなら、神はご自分の条件とタイミングで解決策をもたらしてくださいま
す。 **定められた時**

神の方法は、迅速かつ瞬時の解決を求める私たちの期待とは相容れないかもしれませんが、それでも私たちは神に信頼することを学ばねばなりません。

☛神から示された道とファラオ→出エ4:27～5:2、導かれる神→6:2～8

エフェソの信徒への手紙6:18

どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。

神の救いの最初の計画 ➡ **出エ**ジプト

神の救いの最後の計画 ➡ **調 査 審 判**

神の導きを待たずに急いで計画すること エレン・G・ホワイトの警告

特に伝道や組織改革の際に、人間の計画と判断だけで動くことを警告しました。

「祈りと熟慮を通して神の導きを受けるべき」と繰り返し述べています。

→性急な計画や自己の判断への依存の危険

『教会への証 第5巻 (Testimonies for the Church, Vol. 5)』 p. 429

“Many are in danger of rushing ahead of Christ. They seek to act before He has spoken, to take upon themselves responsibilities He has not laid upon them.”

「多くの人がキリストの前を走り出してしまう危険にさらされています。神がまだ語られていないのに行動し、神が任せていない責任を自分に負わせようとするのです。」

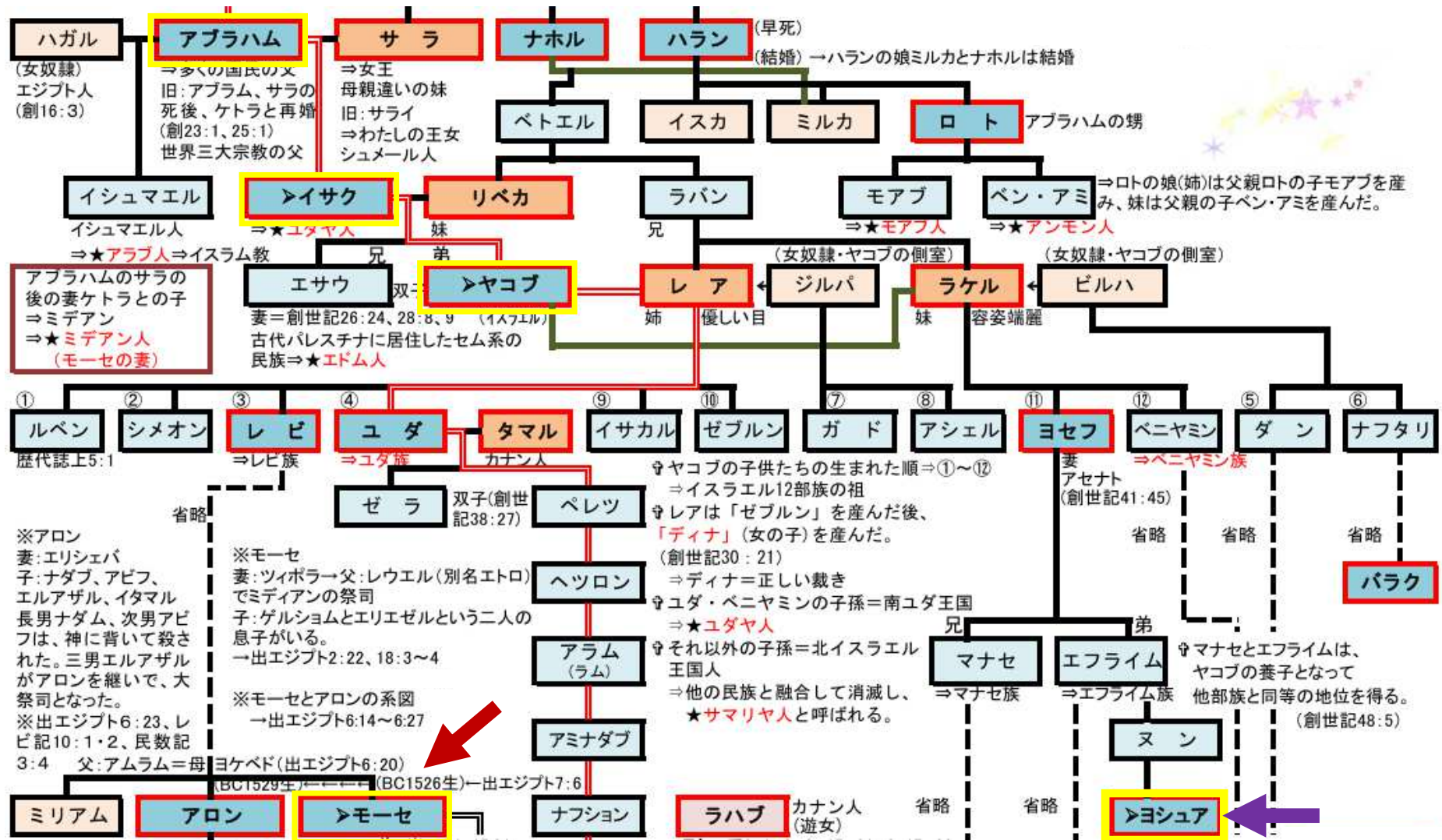
→神の導きを待たずに急ぐことへの警告

『教会への証 第5巻』 p. 721

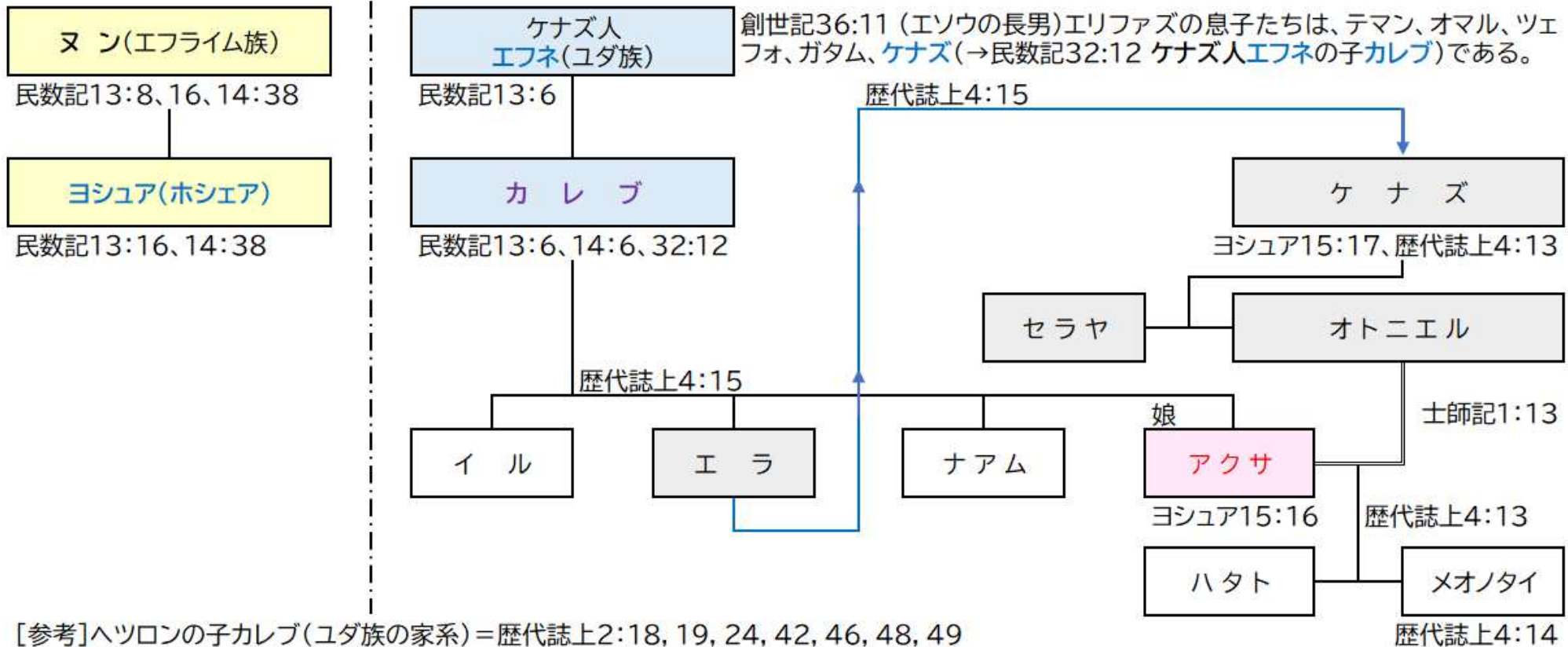
“Many are in danger of moving too hastily, without praying and waiting for divine direction.”

「多くの人が、祈らず、神の導きを待たずに、性急に行動してしまう危険にある。」

教会の決断や改革、開拓伝道などでも、計画よりも神の導きを優先すべきだと説いています。



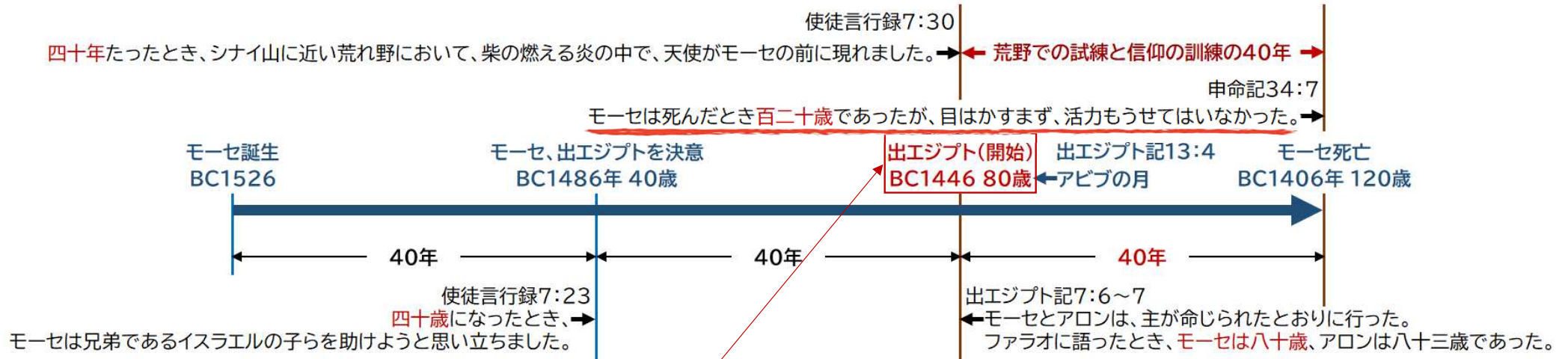
偵察隊のヨシュアとカレブに関する相関図



カレブはケナズ人エフネの子で、ユダ族に属し、モーセの命により約束の地を偵察した十二人の一人でした。彼は主に従い抜いた信仰者であり、ヨシュアと共に荒れ野を生き延び、カナンの地に入った二人のうちの一人です。カレブには娘アクサがいて、彼の弟または親族ケナズの子オトニエルが町キルヤト・セフィルを攻め落とした(ヨシュア記15:16)ことで、アクサを妻として与えました。オトニエルは後に士師としてイスラエルを救う者となりました(士師記 3:9～11)。カレブの嗣業地はヘブロンで、アナク人を打ち破って得た土地です(ヨシュア記 14:13～14)。

一方、ヨシュアはヌンの子で、モーセの従者であり、後継者としてイスラエルの民をカナンに導き、土地を各部族に分配しました(ヨシュア記 19:51)。

モーセの一生 The Life of Moses



出エジプト(モーセ)の時期は BC1446 年。

列王記上 6 : 1

ソロモン王が主の神殿 (= 第一神殿 = ソロモン神殿) の建築に着手したのは、①イスラエル人がエジプトの地を出てから四百八十年目、ソロモンが②イスラエルの王になってから四年目のジウの月、すなわち第二の月であった。

ソロモン (在位 : BC970~931 頃→諸説) →ソロモンの在位から、4 年目 (= BC966) から遡ること 480 年前は、BC1446 年 (ユダヤ方式 : 数えで計算)。



人間＝肉体と精神(霊)と魂(心)の分割不可能な統一体

目に見える ← → 見えない

★息(呼吸)psyche プシュケー(ギリシア語):いのち、生命、心、魂

死＝息絶える ← 命 → [い]き[の]み[ち] → 息の道

→ [い](息)の[ち](霊)＝息の内(いのち)、生内(いきのうち)、息力(いのち)

神 GOD

命

肉

(ヨハネ 6:63)

霊

spirit

魂

soul

思

heart

心

=mind,will,emotion
personality,etc

体

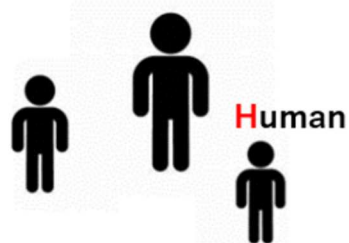
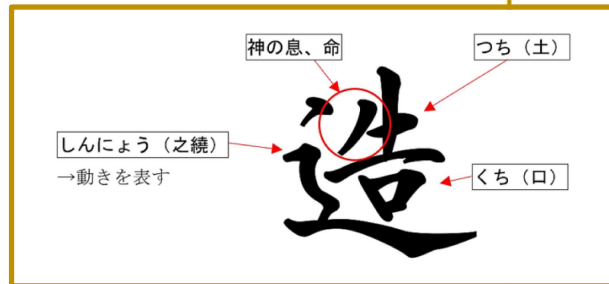
body

- ▶ 神の霊がわたしを造り／全能者の息吹がわたしに命を与えたのだ。
(ヨブ記 33:4)
- ▶ 息吹を取り上げられれば彼らは息絶え／元の塵に戻る(→帰る)。
(詩編 104:29b)
- ▶ 死後の状態について、人間は魂と肉体を分けることのできない存在であり、
肉体の活動が停止すると同時にすべての精神活動も停止し、
復活の時まで無意識の眠りの状態にある。⇒霊魂消滅説
⇒ヨブ 34:14、15 ヨハネによる福音書 5:28～29、ヤコブの手紙 2:26

- ▶ 霊が人間を去れば／人間は自分の属する土に帰り／その日、彼の思いも滅びる(詩編 146:4)。
- ▶ 塵は元の大地に帰り、霊は与え主である神に帰る(コヘレトの言葉 12:7)。

↓ ★人間に与えられた神の命の息(霊)は、神に帰る。

ルアハ(ヘブライ語):息、風、霊 → (新約)霊:プニューマ(ギリシア語)



出エジプト

神は燃える柴の中からモーセを召し出し、「イスラエルの民をエジプトでの奴隷状態から救い出し、わたしの民イスラエルをエジプトから導き出せ」と命じました(出エジプト記3章)。モーセは最初ためらったが、神の励ましと助けを受けて従いました。

神がモーセに出エジプトを命じられたのは、**①イスラエルの民の叫びに応えるため、②アブラハムへの約束を果たすため、③イスラエルをご自身の民として聖別するため、④神の力と名を世に告げるため**、という理由がありました。出エジプトは、神の救済計画の中心的出来事の一つです。

モーセは神から特別な使命を受け、イスラエルの民をエジプトから導き出すという大きな責任を担いました。しかし、その過程では民の不信仰や不満が繰り返され、大きな試練が伴いました。

☛民の不平と問題行動

民は神の奇跡(十の災い、紅海の分断など)を経験したにもかかわらず、繰り返し不平を言い、神に背きました。→水がない(出エジプト記 15 章)、マナとウズラの与えられる前に食料の不満(16 章)、水を求めてモーセに怒鳴る(レフィディム)(17 章)、金の子牛を作って偶像礼拝(32 章)等々

☛神とモーセの忍耐

神は怒りを燃やすこともありましたが、モーセは仲介者として民のために何度も執り成しをしました。これは、イエス・キリストによる執り成しの型(ひな型)とも見れます。

出エジプトの旅は、**神との信仰を問われる波乱づくめ(試練)の道**であり、民の不信仰と神の憐れみ、モーセの献身が強く描かれています。

計画と勤勉の祝福 2025.07.10 三田キリスト教会UP(一部)

神様は決して混乱の神ではありません(コリント信徒への手紙Ⅰ 14 章 33 節 神は無秩序の神ではなく、平和の神だからです)。神様ご自身が秩序を持って天地を創造されたように、私たちの人生にも計画と秩序を望んでおられます。私たちが神に信頼し、計画を持って歩むとき、たとえ困難があっても、神様はその一步一步を祝福してください。

若い時からの人生設計も、働き盛りの選択も、老年期の備え(お金だけではない)も、すべて神様と共に計画する時、そこには平安が生まれ、神の豊かな恵みと守り、そして導きが現れるのです。

最後に、箴言 16 章 3 節の言葉を心に留めましょう。「**あなたの業を主にゆだねれば／計らうことは固く立つ**」。

神に信頼し、勤勉に、計画的に生きる者に、主なる神様は必ず確かな道を備えてくださるのです。

ヤハウエ、エロヒーム、エホバ

ヤハウエ(Yahweh)・・・原語の YHWH をできるだけ忠実に再現した学問的に正しい発音。

ヘブライ語原語：יהוה (YHWH) = Yahweh(ヤハウエ)

意味：「ある者」「在りて在る者」＝永遠に変わらない存在

特徴：神の最も聖なる名前で、神がご自身をモーセに示した時の名（出エジプト記 3 章）。

新共同訳聖書などでは「主」という表記でヤハウエを訳す場合が多い。

エロヒーム(Elohim)・・・神(エル)の一般的な称号、「神々(複数形)」→単数扱い。

ヘブライ語原語：אלהים (Elohim)。

特徴：創造主・全能者(全能・裁き・宇宙的存在)。神の力・威厳・裁きの側面が強調される。他の文脈では異教の神々(gods)を指すこともある。

Gen 1:1 In the beginning God created the heaven and the earth.

אלהים 'ēlôhîym, el-o-heem

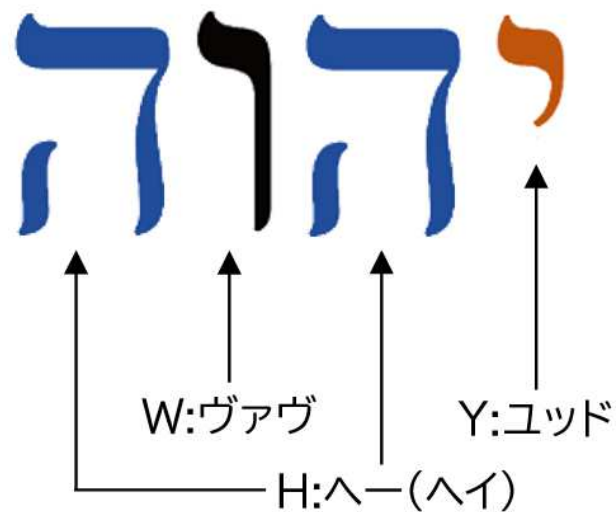
エホバ(Jehovah)=**ヤハウエ(Yahweh)**・・・主に欽定訳聖書(KJB)などで使用され、一般に「LORD(すべて大文字)」と訳される。ヘブライ語原語：יהוה(YHWH/ヤハウエ=テトラグラマトン)と書かれる神の名に由来し、正確な発音は不明。神ご自身がモーセに明かされた固有名詞（出エジプト 3:14）。

意味：「わたしはある(I AM)」＝存在そのもの(出エジプト 3:14a「わたしはある。わたしはあるという者だ」)

特徴：特に旧約聖書において頻繁に登場し、人格的で契約的な(個人的関係・約束・導きの)神を表す。ユダヤ人は神の名を畏れ、直接読むことを避け、「アドナイ(主)」や「エロヒーム(神)」と読み替えた。

※他に「全能の神(El Shaddai / אל שדי:エル・シャダイ)」(→創世記 17:1 他)などがある。

ヤハウエ(ヘブライ語: יהוה)



モーセに啓示された神の名、唯一神、万物の創造者の御名(ユダヤ教およびキリスト教における唯一神の御名)である。

この名(ヤハウエ)は YHWH の4文字で構成され、テトラグラマトン(聖四文字)と呼ばれます。

右から左に読み書きされるヘブライ文字の4つはそれぞれ、次のように読みます。➡ Y: ユッド、H: ハー(ハイ)、W: ヴァヴ、H: ハー(ハイ)
日本語ではヤーウエ、ヤーヴェ、エホバ等とも表記されます。

文字を書き進める方向(書字方向)は、概ね、①欧米では左から右の横書き(左横書き)、②中東圏では右から左の横書き(右横書き→主にアラビア文字、ヘブライ文字、シリア文字、ターナ文字)、③漢字文化圏では右から左への縦書き(右縦書き漢字→平仮名、片仮名、ハングル)④左から右へ縦書きする左縦書き(→モンゴル文字)です。

神 God

Gen 1:1 In the beginning **God** created the heaven and the earth.

בְּרֵאשִׁית בָּרָא אֱלֹהִים אֶת הַשָּׁמַיִם וְאֶת הָאָרֶץ

↓
אֱלֹהִים

אֱלֹהִים 'ēlôhîym, el-o-heem' エロヒーム; gods in the ordinary sense; but specifically used (in the plural thus, especially with the article) of the supreme God; occasionally applied by way of deference to magistrates; and sometimes as a superlative.

通常の意味での神々。特に(複数形で、特に冠詞をつけて)最高神(→創 46:3、出 3:6)を指す。時には最上級として使用される。

普遍的な神性、力、権威の表現。ユダヤ教・キリスト教においては唯一神を指す。文法上は複数形なので、三位一体とも取れる。

一方、「主(ヤハウェ)」は、モーセに啓示された固有名詞としての神の御名、神の忠実さ、憐れみ、正義を表す。「わたしはある」(出エジプト記 3:14 に関連)。契約を結ばれる神、イスラエルの民と特別な関係を持つ神を強調する場面で使われます。

Exo 5:22

モーセは主のもとに帰って、訴えた。

יהוה Yehôvâh, yeh-ho-vaw'

And Moses returned unto the LORD, and said,

「わが主よ。あなたはなぜ、この民に災いをくだされるのですか。わたしを遣わされたのは、一体なぜですか。

אֲדֹנָי Adônây, ad-o-noy'

Lord, wherefore hast thou so evil entreated this people? why is it that thou hast sent me?

神はモーセに対し、過去にご自身が行ったこと——契約、約束、導き、救い——を思い起こさせ、「わたし(神)」という表現を繰り返すことで、ご自身の信頼性と約束の確かさを強調されます。

そして、神はイスラエルをエジプトから導き出し、救い、贖い、ご自身の民とされることを宣言されました。

これらの行動は神の愛による無償の賜物であり、今も変わらず私たちにも同じように働かれるという信仰が語られています。

創世記28:15

見よ、わたしはあなた(=ヤコブ)と共にいる。
あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る(連れ戻す)。
わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。

出エジプト記3:12

神は言われた。「わたしは必ずあなた(=モーセ)と共にいる。
このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである。
あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたたちはこの山で神に仕える。」



出エジプト記 3：4

主は、モーセが道をそれて見に来るのを御覧になった。神は柴の間から声をかけられ、「モーセよ、モーセよ」と言われた。彼が、「はい」と答えると、

And when the LORD (יהוה Yehôvâh, yeh-ho-vaw') ※₁ saw that he turned aside to see, God (אלהים 'êlôhîym, el-o-heem') ※₂ called unto him out of the midst of the bush, and said, Moses, Moses. And he said, Here am I.

出エジプト記 6：2～3

神はモーセに仰せになった。「わたしは主である。わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに全能の神として現れたが、主というわたしの名を知らせなかった。

And God※₂ spake unto Moses, and said unto him, I am the LORD※₁: And I appeared unto Abraham, unto Isaac, and unto Jacob, by the name of God (אלה 'êl, ale) Almighty (שדי Shadday, shad-dah'-e), but by my name JEHOVAH was I not known to them.→全能の神=エル・シャダイ (ヘブライ語)

出エジプト記 20：1～2

神はこれらすべての言葉を告げられた。「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隸の家から導き出した神である。

And God※₂ spake all these words, saying, I am the LORD※₁ thy God※₂, which have brought thee out of the land of Egypt, out of the house of bondage.

神の言葉が臨んだ預言者等 53 人

預言者は、自己の思想や思惑によらず、神の靈感により啓示された神意（託宣）を伝達し、あるいは解釈して、神と人とを仲介する者をいう。聖書（聖句抜粋）に記されている預言者等（男 48、女 5 名）は次の通りである。

創 世 記	15:01 これらのことの後で、主の言葉が幻の中で【アブラム】に臨んだ。「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」
出エジプト記	06:02 神は【モーセ】に仰せになった。「わたしは主である。」
	07:01 主はモーセに言われた。「見よ、わたしは、あなたをファラオに対しては神の代わりとし、あなたの兄【アロン】はあなたの預言者となる。」
	15:20 アロンの姉である女預言者【ミリアム】が小太鼓を手にとると、他の女たちも小太鼓を手を持ち、踊りながら彼女の後に続いた。
民 数 記	24:02 【バラム】は目を凝らして、イスラエルが部族ごとに宿営しているのを見渡した。神の霊がそのとき、彼に臨んだ。
士 師 記	04:04 ラビドトの妻、女預言者【デボラ】が、士師としてイスラエルを裁くようになったのはそのころである。
	11:29 主の霊が【エフタ】に臨んだ。彼はギレアドとマナセを通り、更にギレアドのミツパを通り、ギレアドのミツパからアンモン人に向かって兵を進めた。
サムエル記上	03:20 ダンからベエル・シェバに至るまでのイスラエルのすべての人々は、【サムエル】が主の預言者として信頼するに足る人であることを認めた。
	22:05 預言者【ガド】が、「要害にとどまらず、ユダの地に出て行きなさい」と言ったので、ダビデはハレトの森に移って行った。